

即売会レポート（東京ビッグサイト）

国際日本学部 日本文化学科3年 松本 悠里圭



即売会への参加経験が無いメンバーが多い中、ビジネスホテルが立ち並ぶ国際展示場駅に10時半に集合、のほろけでした。待ち合わせの時刻が近づくと、冬めいてきた有明。お目当ての同人誌完売に戦々恐々の私。神隠しにでもあったのか、駅前にも関わらず合流できないメンバー。連絡を取ってみると、どうやらゆりかもめを利用してしまっていたようでした。「そっちじゃなあい!!」と私

の背後には新ゴB形式のフロントがデカデカと浮き上がっていたことでしょう。東京ビッグサイトに足を運ぶならば、りんかい線またはゆりかもめを利用するのが一般的です。しかし、ビッグサイトの近くに二駅も存在するというのは初めて足を運ぶ人にとっては至極分りにくいのです。蛇足ですが、有明エリアである国際展示場駅は東京ディズニーリゾートへ足を運ぶにも便利であるこ

とから同人誌即売会に参加される方以外にDオタさん（ディズニータク）の利用もあり、周辺ビジネスホテル宿泊者のオタク率が日本一高いエリアなのではないかと思っています。

さあ、気を取り直して、駅を間違えてしまったメンバーとはビッグサイト前で合流し、目的地である東京ビッグサイトに到着しました。入口では令和らしくバーコード決済も導入された形で入場

券が販売されています。入口付近で見られるオタクらしさ、といえはやはり歩行スピードや荷物の大きさでしょう。決して走らず、しかしトップスピードを保ちながらサークルの元へ脚を動かすオタクの手には、戦利品を無傷で自宅まで運び帰るためのキャリーバッグ。私自身はキャリーバッグを利用して即売会に参加したことはないのですが、あのオタクは数年、いえ数ヶ月後の私なのかもしれない、と未来が鮮明に視えるような心持ちです。さて、今回は開場後の入場だったので体験できていないのですが、開場前から待機列に並んでいると会場全体に響く「開催します」のアナウンス、そして参加者の拍手で即売会はスタートします。その光景は、即売会には「参加者しかいない」という独自のイベント形態の現れといえるでしょう。

会場へ足を踏み入れてからは私の趣味嗜好、そして尊厳のために個人的に行動させていただきました。即売会への参加に慣れると新鮮味も薄れるでしょう？いえ、そんなことは全くございません。強い言葉を使うと弱く見える、という先人の言葉もありますがこのビッグサイトには心躍らせる不思議な空気がいつも満ち満ちており、常に新鮮なのです。打ちっぱなしコンクリートの会場に広がるテーブルとパイプ椅子の大海原は配置のされ方こそ同じでも、そこに位置付けられるサークル参加者が変わり、訪れる参加者が変わり、さらには参加者が原型をとどめず二次元から眉目秀麗な身なりで顕現します。会場には、

「脱稿レースお疲れ様です、あの、私アマゾンプライム会員です！」

「わあー！プライム会員さんだあ！お久しぶりです！プライムさんもいつもお仕事お疲れ様ですー」や、

「あの、いつもお話楽しく拝見させていただいてます。これ、つまらないものですがポリッツさんに差し入れなんですけど・・・」

「えーっそんなあ！ありがとうございます。」

といった会話が当たり前に飛び交っています。「アマゾンプライム会員」さんも「ポリッツ」さんも私の捏造ではありますが、このようなトンチキな名前でSNS上にてオタクとして活動されている方が多くいらっしゃいます。私もそのうちの一人です。このビッグサイトという会場は、夏ならば熱気を増し、冬ならば凍えた体を温める、オタクというアイデンティティを持ちながらインターネット上という仮想空間に身を置く私たちを現実繋ぎ止めてくれる貴重な空間なのだと思います。

以上が東京ビッグサイトにて行われた同人誌即売会のレポートです。オタクの生態に興味がある方は是非一度でもいいので即売会に足を運んでみて欲しいです。実は、秋葉原でメイド喫茶に行くよりも、漫画を大人買いするよりも、簡単にオタクを体験できるのが、ここ東京ビッグサイトなのです。